

FP Topics

= 変額保険について =

2024年8月号

= One's impressions =

暑いが続いています、そろそろ夏バテが心配になりますね💧。しっかり水分を補給して、熱中症対策を心がけていただきたいと思います。

年齢があがってくると、自分の調子が悪いことに気付くのも遅れるそうです。

電気代は気になりますが、エアコンをしっかりと利用して、適切な温度設定を心がけるようにして下さい。

さて、今月は『変額保険』について、特集してみたいと思います。それだけでなく保険は難しいイメージがありますが、変額保険はそれに輪をかけて複雑な設計になっているようです。変額保険は資産運用付きの保険です。資産運用は、自分の理解が追いつかない金融商品を買ってはいけないというのが大前提です（投資の鉄則）。

あくまで自己責任となりますので、しっかり内容を理解しておく必要があるのではないのでしょうか。短期的な保有では、必ずといっていいほど解約損が生じる傾向にあるようです。注意が必要です！

= 変額保険とは =

変額保険は、資産運用の実績により保険金額（死亡保険金）や解約返戻金の金額が変動するところに大きな特色があり、保険期間には一定期間の保障がある有期型と生涯保障が続く終身型があります。

大きな特徴は、保険運用コストを差し引いた後の保険料が積立金として運用され、その積立金額は日々変動することです。死亡保険金等は基本保険金額が最低保障されていますが、死亡・高度障害時には、積立金の合計額または基本保険金額のいずれか大きい額が支払われることとなります。しかし、満期保険金額と解約返戻金額は、積立金額に連動しているため最低保証がなく、運用実績が芳しくない場合、いずれも元本割れする可能性があります。

= 変額保険と定額保険の相違点 =

変額保険と定額保険の大きな違いは、定額保険では保険契約者が支払った保険料が、「一般勘定」で運用され、その運用リスクは保険会社が負います。一方、変額保険では保険料が「特別勘定」で運用され、その運用リスクは保険契約者が負うことに注意が必要です。

つまり、保険契約者は個人で資産運用を行うのと何ら変わらず、運用面だけをみると運用実績について、あくまで自己責任となります。

保険運用コストを差し引かれたあとの積立金額を自己責任運用とされることから、この資産運用にはあまり意味がないように思えます。

	定額保険	変額保険 (有期保険)
死亡保険金 高度障害保険金	保険金額が保証されている	運用実績により変動する
満期保険金	”	”
解約返戻金	”	”
運用リスク	生命保険会社が負う	保険契約者が負う
資産の管理運用	一般勘定	特別勘定



＝変額保険に係る主な費用＝

～今月の山便り～

分類	費用項目
保険契約 関係費用	保険料の収納に必要な費用
	保険の締結に必要な費用
	保険契約の維持に必要な費用
	死亡保障等に必要な費用
	保険料払い込み免除に必要な費用
	特別勘定の管理維持に必要な費用
資産運用 関係費用	特別勘定の投資信託の信託報酬
	ファンドの監査報酬等その他の費用
年金管理 関係費用	年金支払い特約による年金受け取りに係る費用
解約控除 関係費用	解約日等における一定の場合に差し引かれる費用

変額保険は多くの費用（コスト）が発生します。上記、表のように保障と運用のいずれからも費用を差し引かれることを認識する必要があります。

＝変額保険の注意点＝

	注意点
価格変動リスク	株価や債券価格の変動リスク
金利変動リスク	市場金利の変動によるリスク
為替変動リスク	外国為替相場の変動リスク
信用リスク	経営の悪化や財務状況の悪化による資産価値の減少リスク
カントリー リスク	投資対象国の固有の事情によるリスク（政治や紛争）
流動性リスク	市場の流動性の悪化によりリスク

変額保険は、上記の様々なコストやリスクが含まれる金融商品であり、早期の解約（10年未満）では、一般的に解約損が発生する危険性がたいへん高くなるようです。

あくまで私見ですが、保険は保険として、投資は投資（資産運用）として別々に考えるべきだと思います。

保険というシステムは、人類の英知が育んだ優れた機能ではありますが、その使い方に多くの問題が含まれているようです。

大変むずかしいところではありますが、金融経済教育という観点では、若い世代にもしっかりと伝える必要があると考えています。

28歳ごろだったと記憶しているのですが、当時某大学ワングル部出身の友人と親しくしていたこともあり、山歩きに復帰しました。当初は何とかの一つ覚えよろしく、雲取山ばかり歩いていました。東京都の最高峰です。

標高は2017mあります。当時は他の山を歩こうという考えがあまりなかったように思えます。雲取山はかなり遠い山でした。奥多摩に位置します。東京都と埼玉県、山梨県の県境にあるのです。正確には覚えていませんが、おそらく30回近く登っていると思います。

印象に残っているのは、雲取山で迎えた、2000年問題の瞬間です。20世紀最後の年を迎える1999年の大晦日、コンピューターが2000年以降の日付を正しく扱えない恐れがあり、2000年1月1日午前0時に様々なシステムが誤作動を起こすのでは？という問題でした。

雲取山山頂から少し降ったところに、雲取山荘という山小屋があり、その周辺にテントを張ることでできました。そこから大都会新宿の街の明かりが見えたのです。2000m級の山の12月は極寒の世界です。当時はしっかりした冬山の装備も持っておらず、薄っぺらい夏用の寝袋で、体に新聞紙を巻いて寝ていたのを思い出します。

極寒のテントから、わくわくしながら(不謹慎です)新宿の夜景を眺めていましたが、年越しの0時を過ぎて何も起こりませんでした。大停電がおきる？なんて噂もあったのです・・・ホッとしながらがっかりしました。2000mの上空から凄いものがみられるかも？という期待もあったのですが・・・

